２０１２年度　　墨田区立向島中学校３年　学年だより

道

NO. 18
２０１２．５．１１

「個人ノートから」　２組編

先日、学活で「聞く地蔵、聞かぬ地蔵」という読み物から、今の自分の立場がどうあるべきかということについて考えさせました。その際、使用した本文とその感想を一部抜粋して載せます。

聞く地蔵と聞かぬ地蔵

むかしむかし、ある平和な村にどこからともなく現れた僧が、荒れ果てた寺に住みつき、コツコツと何かを作っておりました。その僧がある日、村人を集めていいました。「ここにふたつのお地蔵さまができておる。一体は、村の西のはずれの峠道に、もう一体は東のはずれの峠道に立てなされ。東のお地蔵さまに願いをかければたちどころに何でも叶えてくださるが、西のお地蔵さまは願いをかけてもなかなか叶えてくださらぬ。しかし、村人よ、そなたたちは西のお地蔵さまにこそ参った方が良いぞ」と。そういうやいなや、僧はいつの間にか姿を消してしまいました。

これを聞いた村人は「お参りなさい」と言われても、願いをなかなか叶えてくれないという西のお地蔵さまにお参りをする者はなく、先を争って東のお地蔵さまにお参りをしました。「病を治してください・・・」や「お金持ちになりたい・・・・」などと願いをかけると、不思議なことにその願いはたちどころに叶えられるので、村中の者はこぞって東のお地蔵さまにお参りをするようになりました。

一年たち、二年たち、村人はみなお金持ちに、また病気をする者は誰一人としていなくなりました。

近ごろになると村人の欲は際限がなくなる一方で、やれ「私を村一番の金持ちに・・・」「村で一番の大きな家を・・・」などとみなが願いをかけるので、村中が金持ちだらけになり、汗水をたらして働く者が誰一人としていなくなりました。そのうちに村人は自分だけが幸せになりたいと「誰かを不幸にして・・・」「誰かを病気にして・・・」「誰かの目を見えなく・・・」などと、ひどい願いをかけました。そんな願いをも東のお地蔵さまは即座に叶えてしまうので、だんだん貧乏な人が多くなり、病気の人が増え、村はすっかり荒れ果ててしまいました。

そんなある日、例の僧がひょっこりと村に現れ、言いました。「それ見なさい。わしは最初に言ったはずじゃ。願い事をなかなか叶えてくださらない西のお地蔵さまにお参りをしなさいと・・・。」そう言ったかと思うと、僧はまた姿を消してしまいました。

西のお地蔵さまは、願い事を聞いてくださるわけではないので、村人はただただ拝むだけでした。

やがて村人は勝手な願掛けは止め、欲張ることを止めて、各々が一生懸命働くようになりました。そうしてその村はもとのように平和な村になったということです。

おしまい。

楽なのはいいですが、絶対それは自分に返ってくるのではないかと思います。それと、しあわせは自分でとりたいと思いました。よっちゃんの意見、めっちゃいいと思った。

人間は欲だらけな動物です。でもそれは野性的な人間。ちゃんとしていれば、欲があっても自分でおさえられる。私はそんな人間になりたいなと思った。人任せではなく自立できる人間になりたいと思った。

何でもかなえてくれるお地蔵があったら、この話よりももっと大変なことになっていると思います。幸せは自分たちで叶えるものだと思いました。

そのあとの地蔵が気になってしょうがない。地蔵が欲しい。

頼んだことが必ず叶うとは限らない。梨菜が言ったように働くありがたみとかが大事だと思った。

村人たちは最終的には大事なことに気付いたので良かった。欲はみんなが持っているもので、どうしようもないことだけどおぼれちゃダメだと思う。よく言われるように「親の言うことをきけ」って意味がわかった気がする・・・。

結局僧は何がしたかったのかよく分からなかった。でも願いの叶いやすい地蔵を作れるのはうらやましいと思った。瞬間移動もできるっぽいし。願い？？欲望は自分で努力して叶えるものだとあらためて思いました。

苦労なしで幸せはとれない！やっぱり幸せは苦労してとるもんですよ！

人間の欲深さが分かった。それに人間は努力しないとダメになると思うし、ひと言に幸せといっても様々なものがあると思うから、自分だけとかそういう欲は無くした方がいいと思う。でも欲を無くし過ぎるとそれもダメ人間になってしまうから。適度に欲を持つべきだと思った。欲の分だけ働くべきだと思った。

自分でできることは人に頼まないでやろうと思う。それで、人のためになることもやろうと思う。